

令和2年度 ふるさと教育推進事業

隠岐教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	海士町立 海士小学校・福井小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
6	総合的な学習の時間	子ども議会	学習を通じたふるさとへの愛着や誇りの醸成

1 特色ある取組の概要

子ども自らがテーマを設定し、地域に出かけて行って調査やデータ分析をした上で提案にまとめ、実際の議場で町長や役場課長に向けて発表する。子どもなりの視点と言葉で「ふるさと海士をよくする」ために行う提案の場は、小学校のふるさと学習の集大成として位置づけられている。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

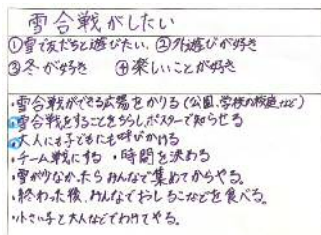
- ・ 教員と教育コーディネーターや教育委員会のスタッフが協働しながら、小学校6年生時における探究的な学びの見直しを図った
- ・ 子どものやりたいこと（will）をサポートしていけるよう校内指導体制を工夫した
- ・ 大人を交えた合同学習のあり方を見直しをおこなった
- ・ 継続的に大人と協働的な学びを作ることができるよう工夫した

【取り組みの具体事例】

- ① 探究的な学びのプロセスの見直し：町の課題の改善からスタートするのではなく子ども自身の興味や関心を言語化することから始めた。テーマは「ワクワク・ドキドキ」
- ② 「おちゃ（茶）べり会」の実施：①の伴走役として地域の方を招いた。大人と子どもがお茶を飲みながらゆっくりと対話をする中で、子どもたちは自分の興味の種に気づいていった。
- ③ 「中間発表会」の実施：②に協力いただいた地域の方々に、半年を経た子どもたちの提案を聞いていただいた。一人ひとりの成長を感じてもらい、本番に向けてのエールを頂いた。
- ④ 上記の取り組みを活かすために、担任一人だけではなく管理職や他の教員にも指導に入ってもらった。一人の教員が受け持つ児童が2～3人なので動きやすく、子どもたちが自分のやりたいことに向けてすぐに行動できるようになった。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- ・ やりたいこと（will）から始めたことによって、これまでよりも主体的に自分の意見を出したり、調査活動に取り組んだりする姿が見られた。
- ・ 大人と関わることで視野が広がったり、人と関わることでできることが増えたりするということを実感していることが見受けられた。



やりたいことを書いた「ウィルカード」



おちゃべり会で語り合う児童と地域の方



中間発表会では励ましの言葉をいただく



担任以外の教員も子ども議会のチームに

特色あるふるさと教育事例

学校名	海士町立海士中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	総合的な学習の時間	「自分たちの力で、地域を盛り上げよう」	学習を通じた、ふるさとへの愛着や誇りの醸成

①取組の概要

町内にある4つの地区（地区は町全体で14ある）を舞台に、自分たちにできることや得意なことを生かして地域を元気にする活動を企画・実践した。授業の展開にあたっては、各地区の区長さん、公民館長さん、子ども会の会長さん、教育委員会のスタッフなどに携わっていただきながら、地区の実態の調査などに取り組んだ。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・フィールドワークで実際に足を運び、その地区の「現地・現物・現人」と関わることに重きを置いた学習活動を展開した。
- ・互いの顔と名前が見えるような関係づくりを心がけるために、一度きりではなく、何度も足を運んでお話をする機会をもつように努めた。
- ・各地区のキーマンとの繋ぎ手として、コーディネーターや教育委員会の地区担当者と連携しながら授業づくりに取り組んだ。

③児童・生徒に見られた変容

- ・地域に住む大人と意欲的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られるようになった。
- ・学校外での地域行事に参加する姿が見られるようになった。

【各地区フィールドワークの様子】



【生徒の感想】

- ・最初はあまり多井のことを知らなかったけど、今回の学習を通して多井のことに興味を持てたり、温かさを感じたりすることができた。
- ・ランタンづくりをして多井の人たちの笑顔が見られ、シーグラスもアピールできたのでよかった。
- ・地区のことを調べていくごとに地区のよさを生かしたイベントを考えることができた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	西ノ島町立西ノ島小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習	「西ノ島を味わおう」	「学びに向かう力、人間性等」や「思考力、判断力、表現力等」の育成につながる活動

1 特色ある取組の概要

西ノ島町内でニホンミツバチの飼育・普及活動を行っている安達和良さん（地域講師）を訪ね、飼育・採蜜に取り組む思いやその仕事内容などについてお話を聞くとともに体験活動を行った。さらには、体験活動や調査内容をまとめ、リーフレットの作成、地域公開参観日におけるステージ発表、作文（へき地灯台、あなみへの寄稿）を行った。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

○公民館との連携

公民館スタッフへ自然と食に関わる人材とのコーディネート依頼した。

○安達さんへの取材、学習の打ち合わせ・振り返り。

担任、公民館スタッフ、安達さんと授業の打ち合わせ・振り返りを行う。安達さんがニホンミツバチを飼育することの思いの共有や子どもにも興味を持たせるための活動を検討した。

○体験と学びの循環

全3回の体験活動（みつばち探し、採蜜、みつろうワックス作り）を行った。体験の前後に、体験から分かったことをまとめたり、疑問を地域講師に尋ねたりした。さらには、セイヨウミツバチとの比較を行った。

○発表活動の確保

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

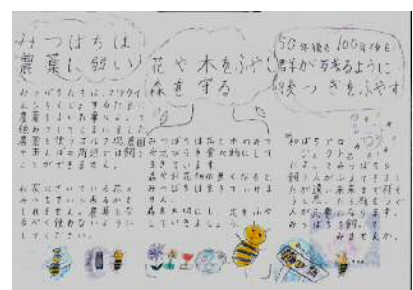
- ・必要となる情報を質問したり、さらに資料を探したりと、学習を深めたりよりよい発表となったりするように児童が進んで学習に取り組んだ。
- ・ニホンミツバチとセイヨウミツバチの生息を比較することで、西ノ島町に恵まれた自然があることに気づき、西ノ島町への愛着を深めた。
- ・安達さんの話を聞き、ふるさとに貢献する人々に対する誇りや畏敬の念を深めた。さらには、西ノ島のために尽力しておられる他の人についても調べてみたいなど学習意欲が高まった。
- ・リーフレット作成や作文活動を通して、表現力の育成にもつながった。



採蜜の様子



ステージ発表の様子



リーフレット（内側）

特色あるふるさと教育事例

学校名	西ノ島町立西ノ島中学校		
学年	主な教科等	主に関わる单元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習	西ノ島町の未来を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わり情報を集める力の育成 ・地域の課題を発見し、解決に向けて提案する活動

1 特色ある取組の概要

中学3年生が総合的な学習の時間において、地域の課題を発見し、解決のための提案を行った。「観光」「漁業」「高齢者福祉」「子育て支援」の4つのグループ（ペア）に分かれ、インタビュー活動やアンケート調査等により、地域の実態を把握し、行政職員・保護者を対象に提案発表を行った。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

○西ノ島町役場との連携

公民館がコーディネートを行い、西ノ島町役場職員と対話的な学習（地域の現状と取組）、その役場職員が調査活動における相談役を担った。

○グループでの学習

協働、関心・興味、自分の強みを生かす（自分の環境など）という観点から、グループを作り学習を進めた。

○調査活動（ニーズ、提案の具体性を探る）

西ノ島町民のニーズに合っているかを調べるため、アンケート等により調査活動を行いデータを集めた。また、提案が実現できるのか等を知るために、役場担当者・関係者等に問い合わせ、アドバイスをもらい、修正を重ねた。

○提案発表の場の設定

発表会当日は、中学2年生、保護者、行政職員を招き意見を交流した。さらには、ケーブルテレビで全町民に向け発信も行った。提案発表後には生徒一人一人が学習での成長点や将来の自分との関係性などを語る時間を設けた。

○振り返りの工夫

学習の振り返りにおいては、自分についてきた力（成長点）やグループのメンバーへの評価（協働）を行った。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

- ・インタビュー（対面・電話）活動を行うことで、コミュニケーション力がついた。
- ・アンケート作成の過程で、答える側の立場に立った質問の設定等を考えることができた。
- ・意見の相違があっても、互いの意見の良さや意見の根拠を見つけ折り合いをつけながら提案に結びつけることができた。
- ・たくさんの情報から、必要な情報を選び分析し、課題解決に役立てる力がついた。
- ・課題解決のために、または地域をより良くしようとするために、以前にも増して自分にどんなことができるかを考えることができた。
- ・ふるさとのことが好きだということを再認識することができた。



漁業グループ 鮮魚店を訪れての調査

特色あるふるさと教育事例

学校名	知夫村立知夫小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全校	行事	ふるさと学習発表会	ふるさと学習で体験したり、調べたりすることで、ふるさとへの関心を持ち、地域へ貢献しようとする気持ちを育てる。

①取組の概要

- 低学年：「知夫のよさに気づく・知る」をテーマに体験活動を行い、学んだことを全員で地域の方・保護者に発表する。（生活科、行事）
- 中学年：「知夫についてしっかり学ぶ（知夫の学びを広げる）」をテーマに、調べ学習を行い学んだことをグループで地域の方・保護者に発表する。（総合、社会、行事）
- 高学年：「知夫についてしっかり学ぶ（知夫の学びを深める）」をテーマに、調べ学習を行い課題解決の提案等を個別又はペアで地域の方・保護者に発表する。（総合、国語、行事）

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 低学年：新型コロナウイルス感染防止のため、地域に出ることができなかった。
- 中学年：地域の方に学校に来ていただき、知夫の方言について学ぶ。
- 高学年：知夫の福祉や文化活動などに関心を持ち、関係者に話を聞き、個別の課題を持ってふるさとを調べる。

③児童・生徒に見られた変容

- 発達段階に応じた発表内容・発表形態で行い、ふるさと学習発表会は参加者からも大変好評で、児童の意欲の向上につながった。
- ふるさと教育の全体計画を見直し体験活動や追究活動を通して様々な人と交流することで、コミュニケーション力の向上が図られた。
- 高校生に関わってもらい、児童は調べたいことや発表したいことをより具体的に考えることができた。（5・6年生、高校生との交流2回、計4時間）
- 自身が関わった地域の方（文化財保護審議委員、地区区長、保育園保育士など）に声をかけ、発表会に来ていただいた。その分、「伝えよう」という意欲をもって発表することができた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	知夫村立知夫中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	「知夫の現状を体験的に学び未来をつくろう」	知夫の大人と知夫のために動きながら、知夫の未来と自分の未来について探究する。

1 特色ある取組の概要

「だんだん物語」・「ふるさと納税」・「いっぱいあつど野菜」の3つのプロジェクトを立ち上げ、3グループに分かれて探究活動と実践に取り組んだ。その成果を発表した後、村長、役場各課課長等をはじめ、地域からの代表者も含めた懇談の場を設定した。

2 各校のふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

- 知夫の未来をより良くしていくために、3つのプロジェクトの中から自分が取り組んでみたい内容を考え、課題意識を高めること。
- 1つのプロジェクトに対して、地域の方の中から伴走者を配置し、専門的な立場から生徒に助言や問いかけを継続的に行い、探究活動を深めること。
- 成果発表会と懇談会を行うことで、自分に身についた力を確認するとともに、大人とのコミュニケーションをとおして社会参画への意識を高めること。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

生徒の学習の振り返り（感想）には次のような内容があり、実践をとおして様々な力が身につき、ふるさと知夫を愛する心が深まっていることがうかがえた。

（身についた力：生徒の記載より）

- ・課題を設定する力
- ・コミュニケーション力
- ・考えて判断する力
- ・自ら行動する力
- ・情報を収集する力
- ・社会参画の力



特色あるふるさと教育事例

学校名	隠岐の島町立 五箇小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5, 6年	総合的な学習の時間	餅米を育てよう（総合的な学習）	米づくりを通し、地域の人々との関わりを深めるとともに、五箇地区の一員として、地域を大切にする心を培っていく。
<p>①取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植え・稲刈り・稲こき体験を通し、米作りについて学習した。 ・地域の方に田起こし等の準備をお世話になり、田植え指導、稲刈り指導、脱穀指導をしていただいた。 ・地域の特産市場に出店させていただき、地域の方に向けて餅米販売を行った。 ・これまでに学習でお世話になった方や、地域の保育所や高齢者施設に感謝の気持ちを込めて、餅米を届けた。 <p>②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と関わる場面として、田植え・稲刈り・脱穀の際に、できるだけ多くの地域ボランティアの方に協力いただいた。 ・事前の下話は教員が行い、当日児童が地域の方にお礼を含め挨拶をする。 ・ふるさと教育担当を校務分掌に位置づけ、地域コーディネーターとの連携、地域ボランティアの活用を図り、体験活動を取り入れた学習を展開した。 ・これまでに学習でお世話になった方や、保育所や高齢者施設等に餅米を配ったり、餅米を販売したりするなどして地域への感謝の心を醸成した。 <p>③児童・生徒に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくりに関わる作業を通年で体験したことで、勤労の大変さと大切さを知ることができた。 ・地域の方々と触れあい、先達の知恵を知ること、地域の温かさやふるさとのよさを感じることができた。 ・米づくりについて、それぞれが見いだした課題について、調べ、まとめ、伝えるという課題解決型学習の進め方を身に付けることができた。 			
			

特色あるふるさと教育事例

学校名	隠岐の島町立 五箇中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	五箇まちづくり協議会	郷土学習

①取組の概要

- ・ふるさと学習の最終段階である中学3年生がこれまでの学習を活かし、ふるさと「隠岐」の現状や課題を見つめ、明るい将来に向けての創案を行う。
- ・創案をもとにした提言書を作成しパワーポイントでのプレゼン資料を用いて、実際の議場に行き提言・答弁を行う。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・「第一次隠岐の島町総合振興計画」を用いて、ふるさとの現状を知る。
- ・実際に地域の方（役場各課）から講話を聴き、疑問や解決のための手立てを考えられるようにする。
- ・他の地域の現状を調べ、自分たちの住む地域との比較やそれを基にしてふるさとについて見直す機会を作る。
- ・地域の方へのアンケートを実施し、ふるさとの現状やそこに住む人の思いを知る。

③児童・生徒に見られた変容

- ・隠岐の島町には課題とされることもあるが、それ以上に多くの魅力があると感じるようになった。
- ・調べ学習をする中で、情報の調べ方やまとめ方を理解した。
- ・地域の人々の支えがあるからこそ今の自分たちの生活があると実感することができた。
- ・提言したことが実現できるように、まずは自分たちから動いていこうという意欲を持つようになった。
- ・町長とのやり取りの中で、相手の発言の要旨を理解することやそれに対してどのような返答をするべきかを考える力が身についた。また、その必要性を感じることもできた。

